

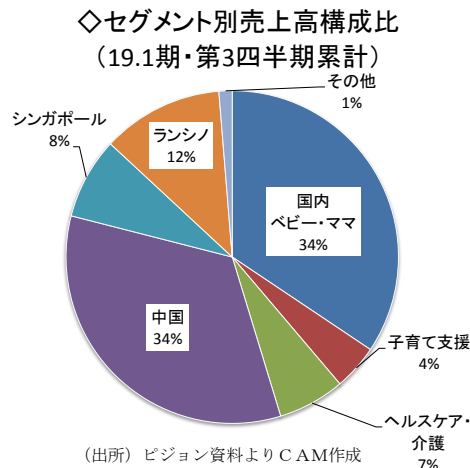
企業ニュース ピジョン

(東証1部：7956) <http://www.pigeon.co.jp/>

作成者：荒木晶子

増収ペースの鈍化は一過性とみられる

1957年設立のベビー用品メーカー。1978年、シンガポールの子会社設立を皮切りに海外へ進出。中国をはじめとしたアジアに拠点を広げた。2004年、米国のLANSINOH LABORATORIES, INC. (以下、ランシノ) をグループ化し、北米・欧州での販売を強化した。第3四半期(8-10月)は前年同期比で売上高の伸び率が鈍化した。中国で前期に発売したディズニーキャラクター付き哺乳瓶の効果が一巡したことや、国内の自然災害の影響でインバウンド売上高が低調だったことが要因とみられる。しかし、中国の要因は計画に織り込み済みであり、国内の要因は一過性であろう。足元の販売動向は堅調を維持しており、通期計画の達成確度は高いと考えられる。



粗利益率の改善で販管費増を吸収し2桁増益

19.1期・第3四半期累計(2-10月)の連結業績は、売上高が794億円、前年同期比5%増、営業利益が169億円、同13%増。営業利益の進捗率は、通期計画に対して83%と好調だった。国内ベビー・ママ事業、中国事業、シンガポール事業、ランシノ事業などの販売実績が好調に推移した。国内に続いて、中国でもスキンケア商材など高採算な商品の売上比率が上昇した模様で、粗利益率は51.9%、同2.8ポイント改善。販管費率の上昇をカバーして2桁増益となった。

19.1期の通期会社計画は、売上高が1,070億円、前期比4%増、営業利益が204億円、同5%増。為替や11月11日の「独身の日」のECセール動向など、不確定要素が多いため通期計画を据え置いたが、第4四半期(11-1月)は前年同期比21%営業減益となる計画であり、第3四半期までの業績を踏まえると保守的な印象である。シンガポール事業やランシノ事業の成長のため、マーケティングやプロモーションを強化し、認知度向上に取り組む。

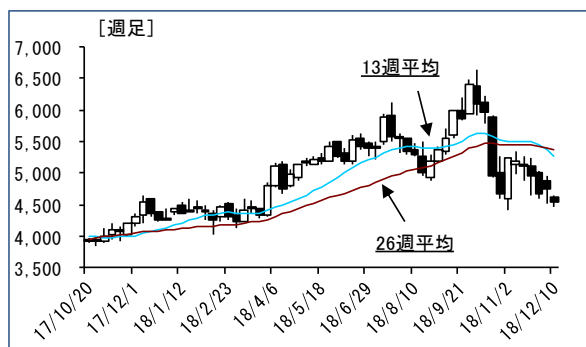
[株価動向・投資判断]

業績は堅調だが、第3四半期の増収ペース鈍化や材料出尽くし感により株価は下落した。一過性要因も多く、事業環境に大きな変化はないため、引き続き安定成長が期待できよう。

<7956 ピジョン 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.1	94,640 (3)	16,015 (10)	16,462 (9)	11,118 (9)	92.8	記53.00
18.1	102,563 (8)	19,412 (21)	20,129 (22)	14,515 (31)	121.2	66.00
19.1 予	107,000 (4)	20,400 (5)	20,400 (1)	14,100 (▲3)	117.7	68.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2018/12/10)	4,550 円
年初来高値(高値日)	6,650 円(18/10/3)
同 安値(安値日)	4,030 円(18/2/6)
予想 P E R (19.1 予)	38.6 倍
1株株主資本(PBR算出用)	524.5 円
P B R	8.68 倍
予想配当利回り	1.49 %
(1株当たり配当金68.00円)	
R O E (18.1)	25.7 %
発行済み株式数	12,165 万株